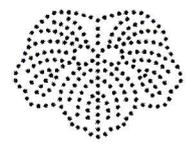


「リゅうま伝」は高野の分身がお客様のご挨拶に伺う。という気持ちでお届けしています。



# リゅうま伝

64号  
2025年3月26日  
高野 竜馬

## 「リゅうまの休日」

2月の連休、ちよいと仕事も絡めて北海道へ一人旅をしつめた。高野です。

札幌に宿を取り、アクセスの良いテイネ・スキー場だけで遊ぶつもりでした。ところが、リゅうま伝53号で紹介した30年来の友人M(札幌在住)が色々意見してきます。

「せっかく北海道来たんだからさ、もっと良いところへ行けよ」と言うので、ニセコへ行けとつづくのです。

「軽く言うけどニセコって札幌から車で2時間はかかるぞよ」  
「車は俺が出す」

「お前はスキーしねえだろ？」  
「俺はお前が滑ってる間、ニセコの温泉に入ってるから大丈夫。終わったら電話くれ」

相変わらずです。そういえばコイツ、30年前も正月に私を呼んで下宿させ、自分は休みの途中から私をおいてハワイに旅行に出かけて行ったことがありました。

確かあの時はMの弟が運転してくれてニセコへ行ったなと等と妙なことを思い出します。

「ここがドンペリがおいてあるコンビニだよ」とか「カリーでも五千円するキッチンカーもあるから注意しろよ」とか、Mの解説を聞きながらニセコ町内へ。

噂どおり高級なホテルやコンドミニアムが並んでいます。バブルの不良債権残る2000億円ほど中古のペンションを買えとMが私にけしかけていた土地とは思えません。

ゲレンデ前で降りざめると大半は外国人。スキーインストラクターも外国人です。まるで外国のようです。リフトがゴンドラも見られるから、お金がかかっています。

フード付リフトはシートベルト装備の6人乗りで、しかも革張り。温かくて快適なリフトです。イタリアのピニンファリーナデザインとか・・・(汗)最高のゲレンデを5時間程楽しみました。その間、日本人だけでリフトに乗り合わせることが一度もありませんでした。

昼も2時過ぎ、スキー場を出て高級そうな蕎麦屋に入るも店内に並ぶ外国人の行列で挫折。結局近くの人氣のないうどん屋で一杯千円以上もするうどんを食べて札幌へ戻ったのでした。

夜はすすきので私がMを接待したのですが、あずか教席

しかない鮎屋にも必ず外国人はいます。そして鮎屋の大将もカタコトではあるけれど、英語、中国語、韓国語での対応ができるのだから北海道はいつ行っても素敵なお店ですが、今回は複雑な感情が湧いた夜になりました。

日本の誇るリゾート地で働くのは日本人。遊んでいるのは外国人。砂場を取らぬ園児のような気分を味わった「リゅうまの休日」でした。

さて、今月も残りわずか。砂場を取り戻すために、働きまします！



たかの財形事務所  
〒819-0374 福岡市西区千里 707-13  
☎090-3407-2123  
<https://www.takanozaikai.com> x-11 fp.takano@gmail.com